

秋の深まりと冬の訪れ

秋は、低気圧と高気圧が交互に通過して周期的に天気が変わることが多く、朝晩や日ごとの気温差が大きくなります。低気圧の通過後に流れ込む寒気は日に日に強まって、標高の高い山では雪が降り始める季節です。

気象庁では、季節の移り変わりをお知らせする情報を発表するため、全国で44（北海道内は7）の山を対象に初冠雪の観測を行っており、オホーツク管内では斜里岳（標高1,547メートル）の初冠雪を観測しています。初冠雪の観測は、これまでは気象台職員が庁舎の屋上から目視で行っていましたが、今年からは気象レーダーの観測データや数値予報資料などから積雪の深さを計算した「解析積雪深」を使ったものに変更されます。これによって、天候等に左右されずに安定して初冠雪の判断が行えるようになります。

また、多くの方が夏タイヤで走行しているこの時期に峠などで雪が降るおそれがあるときは「気象解説情報」を発表して、積雪や路面凍結による交通障害への注意を呼びかけます。

「初冠雪となった日」や、積雪の深さを面的に確認できる「解析積雪深」、防災上の留意事項をお知らせする「気象解説情報」は、気象庁ホームページでご覧いただくことができますので、ぜひご活用ください。



初冠雪の記録



解析積雪深
(今後の雪)



気象解説情報等